



第22回GSJシンポジウム
アカデミックから身近な地質情報へ

オンライン辞典のメタデータ： GEOLIS

地質調査情報センター

菅原義明



GEOLISとは

そもそも

地質調査・研究の基礎となるメタデータ

研究所で所蔵している次の文献資料・地図類の“目録データ”

- ①日本人作成文献
- ②日本地域に関する文献録

採録資料の80%が文献交換資料・寄贈資料である。

一般に手に入りにくい情報が多い

国立国会
図書館目録の
地質情報版

全てのデータのオリジナル
がGSJにある。

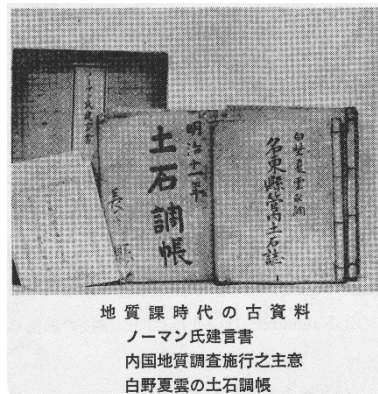
延々と続く

ソーシャルメディア発信

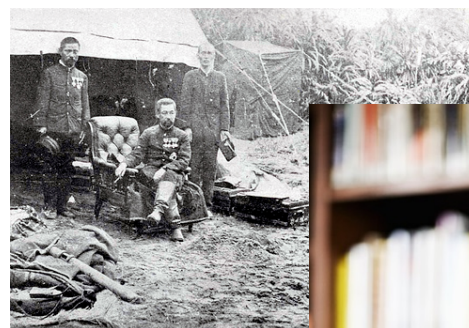
- 明治時代から文献交換による集積を開始



木挽町旧庁舎
(関東大地震前)



地質課時代の古資料
ノーマン氏建言書
内国地質調査施行之主意
白野夏雲の土石調帳



現状

文献交換先(157カ国の1245機関)

蔵書数 図書で約4万冊 地図は10万枚

雑誌タイトルは2万タイトル(廃刊を含む)

その結果

GEOLIS登録データ数

約47万件 (年1万件~2万件増加)

データ作成している
我々の

GEOLISの課題

- データ収集がしにくくなっている

- * 紙媒体に印刷されなくなっている

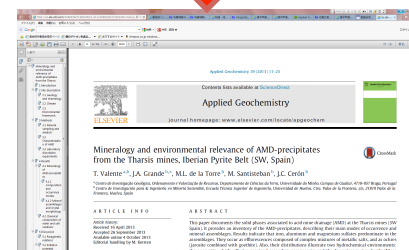
GEOLISの年間登録データの30% (約4,000件/年) が、オンラインジャーナルタイトルになっている。

- 情報を検索する作業が複雑化している

- * 検索するためには直接人手でホームページを開くしかない

- * 検索の主流である検索サイト(Google, Yahoo等)からデータベースのデータを検索できない制限がある。

- ・ 使うためのデータのIDがまちまちの場合がある。
 - ・ インターネット上での連携がとりにくい。



データ収集自動化

解決策

- オンラインジャーナルの国際出版社が提供しているデータ(RSS)を自動収集
- 出版社の変更や配信データの変更に機動的に対応してカスタマイズ



GEOLIS検索の最新機能

★パーマリンクの作成提供

- インターネット上での固定URLを作成する。
- データベースの中身をgoogle クローラーに解放する。



GEOLIS検索の最新機能

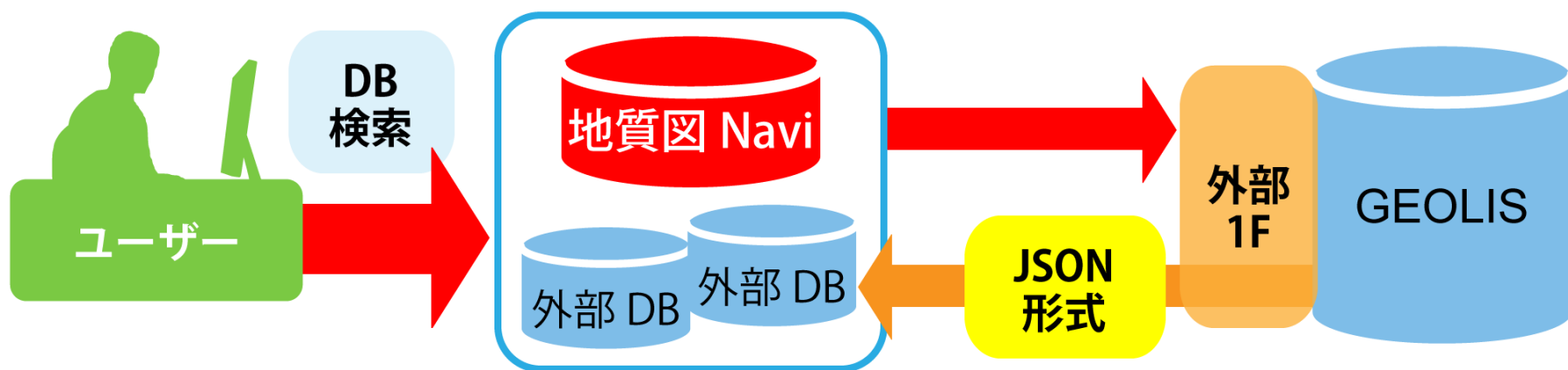
★ハイパーリンクの作成効果

- Google, Yahooなどの検索エンジンからデータ検索が可能、自分のホームページに引用文献として個別IDでリンク可能



GEOLIS検索の最新機能

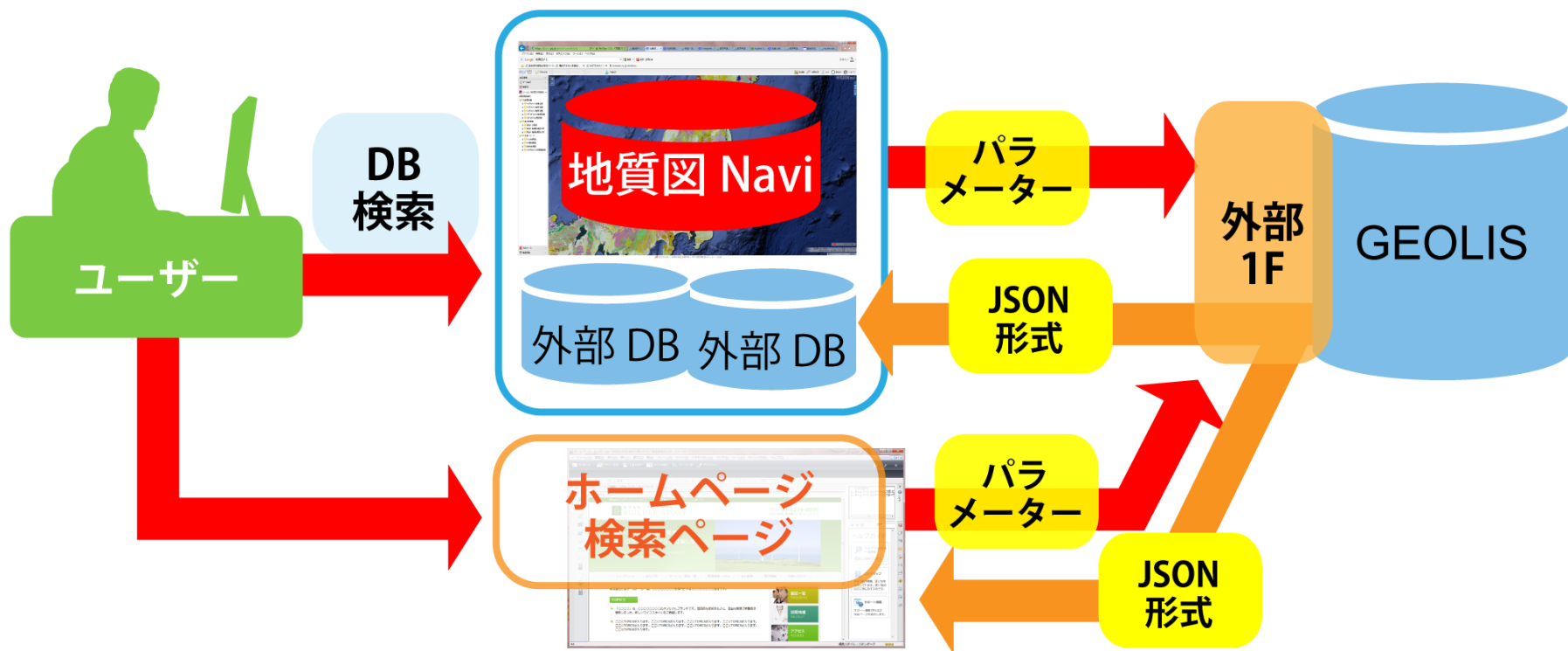
★外部インターフェースの作成



GEOLIS検索の最新機能

★外部インターフェースの効果

- 様々なデータベースとの連携が可能となる。
- ホームページ上でGEOLIS検索のカスタマイズができる。



我々の努力の結果として

現在のGEOLIS検索



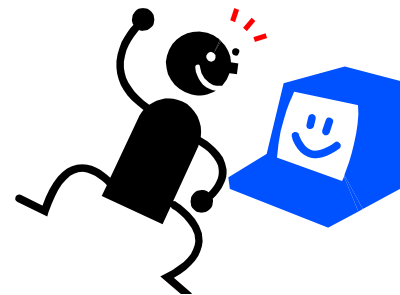
めざすところは

オンライン辞典としてのメタデータ

- ・必要な時に検索できる。
- ・必要な時に自分のシステムにとりこめる。

たとえば・・・

1. 自分の住んでいる地域を説明している論文やレビューをみたい。
2. 郷土の地史を勉強したい。
3. データベースを作成しているが、論文リストを付け加えたい。
4. 調査範囲の論文データを常に最新情報で把握しておきたい。



終